

第 12 回

「組織」と「企業」は別の概念

組織：実態として機能しているネットワークやシステム
(要素と要素を結びつけて相互作用しあう状態を実現)

企業：制度であり、境界、企業内部と市場の仕切り
(要素と要素の関係・相互作用を切ったり隔離する境界)

組織は企業の内部にとどまらず、外部にも広がっている
「超企業」＝「企業の境界を超えた／多企業の」という意味

市場：企業の外部環境、取引・交渉の行われる場

環境：制御不可能な要素、組織の残余 組織：制御可能な要素
組織・人間が制御を放棄して組織の外に掃き出した、
組織の外に置き去りにした諸要因
組織・人間が主体的に設定するもの

組織均衡：

- 1．組織は参加者と呼ばれる多くの人々が相互に関連した社会的行動のシステム。組織の参加者には、従業員のほかに、投資家、供給業者、顧客を含める。
- 2．各参加者はそれぞれ組織から誘因を受け、その見返りとして組織に対して貢献を行う。誘因はたいていの場合、貢献とは異なったかたちでの報酬による。
- 3．組織が参加者に提供する誘因を作り出す源泉は参加者からの貢献である。
- 4．参加者は、要求されている貢献に比べて等しいか、またはより大きい誘因が提供されているときだけ組織への参加を続ける。
- 5．参加者の貢献を引き出すのに必要な量の誘因を供与し、かつそれだけの誘因を供与するのに十分な貢献を参加者から引き出すのに成功しているならば、組織は存続する。この状態を組織均衡と呼ぶ。

「市場の組織化」:

顧客：リピーターの獲得、顧客満足・・・従業員の職務満足と同じく重視
投資家：安定株主工作・・・株式市場から独立
部品供給業者：系列・・・複数の企業にまたがった組織

会社制度の意義：複雑かつ多様な外部環境(市場)から内部環境を隔離し、
単純化・安定化させる点

会社：商行為その他の営利行為を業とすることを目的にした「社団法人」

社団 = 個々の構成員を超えた独立の単一体、構成員の変更にかかわらず存続
出資者間の関係を安定化・単純化

法人 = 法律上、自然人と同様に権利・義務の主体になることを認められた者
法人であれば、団体の名で契約・訴訟・不動産登記ができる

有限責任制 = 出資者財産が団体から独立であることを保障

株式会社なら株を売却することで出資者の立場から自由に退出

内部環境：企業という境界で隔離した企業内部に残った組織化されないもの

「内部環境の安定化」 = 内部環境と外部環境とのやりとりを操作・調整し、

外部環境のもつ多様性・変動性をそのまま内部環境に持ち込まないようにする

標準化：外部環境からのインプットのもつ質的な多様性・変動性を、最初に境界単
位の段階で同質・一定のものにする

緩衝化：境界単位の活動によって外部環境の量的な変動を吸収して、安定的なもの
に変換する

平準化：インプットやアウトプットの出入りの一部を操作・調整して、需要量の山
と谷をならす

* 組織は企業(境界)の外部にも広がる・・・市場の組織化

* 環境は企業の内部にも存在する・・・完全に制御できないものがある

「2人以上の人を含んだ、相互に作用を及ぼしあう要素のシステム」が組織

直接・間接に相互作用を及ぼしあい、互いにある程度制御することが可能

相互作用が及ばない要素には影響も及ぼせず、制御不可能な「環境」となる